

# MONTHLY REPORT



2023 年 5 月

Masato TANAKA

## 【誕生日】

5月になり誕生日を迎えたのですが、友人がサプライズで誕生日を祝ってくれました。家に帰り部屋のドアを開けると、ろうそくのついたケーキを囲んだクラスメイト達がなぜか部屋で待っていて、僕が部屋に入るとバースデーソングを歌い始めます。ろうそくの火を消したあとに何が起きているのかの理解が追い付き、幸せを実感しました。驚きで思考が飛んでいる状態で聞くバースデーソングは、呪文でも唱えられているような感覚で新鮮でした。誕生日ケーキは三つ。フランス人の友人はガトーショコラケーキ。コロンビアの友人は父親のコーヒー農園で採れたコーヒー豆を使ったティラミス。ベネズエラの友人はベネズエラの伝統的なケーキ。どれも手作りで巨大で、最高に美味しい。大の甘党の僕からすると最高の一言に尽きます。ほかにもインド、イタリア、トルコの友人からそれぞれ国の料理を振舞ってもらい、賑やかに年を重ねることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。



## 【香水の町 GRASSE】

学校からバスで1時間ほど、山の傾斜に建物が点々と存在し、お世辞にも住みやすいとは言えないような場所にグラスという中世から香水産業で栄える町があります。バラ、ラベンダー、ジャスミンなど、豊かな香りを持つ花々の理想的な生育条件が揃っている場所ということもあり、穏やかでのんびりと時間を刻んでいるような場所です。南仏は時の流れの違いを感じる場所が多い気がします。とりわけ暖気な人が多いのはそのせいでしょうか。

現代のように気軽に楽しめる娯楽も多くない時代における「香りを楽しむ行為」はどのようなものだったのか、想像が膨らみます。現代人よりも繊細で優れた嗅覚を持っていたのではないか。現代とは異なる価値観、特別感があつたことは間違いないと思います。

歴史を持つ街を訪れ、建物やインフラの名残を味わいながら過去の生活やその場所での時間の積み重ねに思いを馳せる。留学中に町巡りの面白さに気づきました。大人の趣味を手に入れたような感覚です。



フルーツのように  
香り高いグラスのバラ

### 【シャガール美術館と絵画体験】

ニース市内のシャガール美術館を訪れました。マルク・シャガールの作品といえば色彩表現の豊かさ。本当に素晴らしいです。シャガールブルーと言われるのも納得です。

特に良かったのは「ソロモンの雅歌」をテーマにした作品です。ソロモンの雅歌は旧約聖書の内容で、それ自体の解釈が難しいのですが、なんとなく好きな一遍です。閑話休題、5連作で描かれたシャガールの「ソロモンの雅歌」は詩的で官能的な赤色の表現がとても美しく、まさに“うっとり”。バラの香りと共にこの作品を楽しむ企画展のような形で展示されており、プロバンスのバラの香りとシャガールの絵を堪能するという今までにないうっとり絵画体験でした。

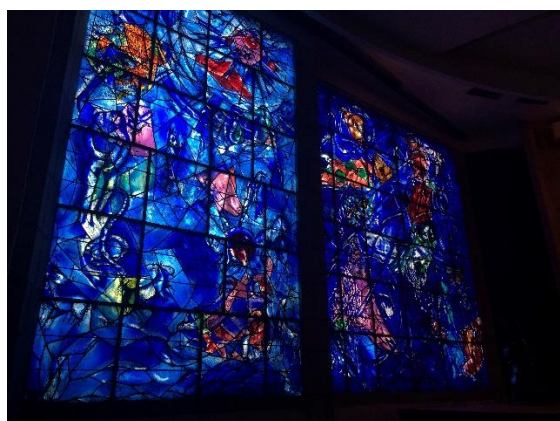


Marc Chagall 「song of songs III」

シャガールを割と大胆な描画が特徴的ですが、よく見ると目線などの人の表情はとてもリアルに描かれています。脇役で小さく描かれた人の表情でさえ、絵の中での時間の流れのようなものを感じることができます。写実主義的な絵画も沢山見てきましたが、それらとはまた違う絵への没入体験がありました。

私は絵画に対する専門的な知識はほとんど持っていないのですが、絵画の展示会や美術館には積極的に訪れるようにしています。知らない何かがある気がするのです。

体験してみる。実際に見ること。経験した先に何か新しい景色が見えます。新しいことや普段と違うことをやってみると、思いがけない結果に驚くことがあります。それが失敗だったとしても良いと思えます。自分の経験に縛られず、挑戦を続ける強い大人になりたいなと日々思います。



シャガールブルーのステンドグラス

立体音響でのサウンドインスタレーション空間の中で  
展示されていました。



ステンドグラスのアイデアスケッチ

布を切り貼りしたなんとも大胆なスケッチですが、  
ほぼそのまま再現されています。面白い。